

令和3年度 第3回 タウンミーティング（概要）

○開催日時 令和4年2月5日(土)午後6時～7時頃

○開催会場 江南市立学習等供用施設飛高会館

○開会あいさつ

こんばんは。飛高区自主防災会はしっかりとした組織の中で、防災に関する資機材を揃えられ、進んだ独自の取り組みを継続されておられます。本日は、学ばせていただこうと思い、タウンミーティングを開催させていただきました。

忌憚のないご意見をいただき、市が進めておりますまちづくりに活かしていきたいと考えております。本日はよろしく申し上げます。

○自主防災活動に関する要望・提言（自主防災会から）

（出席者）

防災活動は人材育成、財源確保、継続の3点が特に大切だと考えています。

江南市には自主防災会が69ありますが、防災訓練以外の活動は行われていない防災会が多いのではないのでしょうか。

人材育成について、市は、防災リーダー講座を開催されていますが、自主防災会のリーダーとして育てるために、災害に対する備え、発災時の対応、発災後の対応等、基本的な防災に関する知識や情報を教える、もっと長期の講座を開催してもらいたい。

その講座に、各自主防災会から1、2名ずつ参加してもらい、各々の地区をけん引する人材を育てる事が大事だと思います。

2つ目の財源について、飛高区は比較的大きな区のため、防災に関する費用は確保できているが、小さな区だと費用の確保が難しいところもあるのではないのでしょうか。

そのため、区費で1軒あたり、月50円、年間600円は、防災に向ける予算として確保することが必要ではないのでしょうか。

市からは区に指示はできないと思うが、費用の確保については、住民にもなかなか浸透しておらず、区費を上げようにも説明が難しいこともあるので、情報提供など協力していただきたい。

3つ目の継続について、防災会長が不在でも、災害はいつ起こるのはわからないので、誰かが続けてくれるという状況を作らなければいけないと思います。1年かけた訓練で知識を得てもらい、いざという時に対応ができることが必要だと思います。

また、飛高区ではシェイクアウト訓練を年2回、午前8時に実施しています。開催日については、チラシを作って、各家庭にお知らせしています。

訓練当日は、サイレンを鳴らして、シェイクアウト訓練を実施した後、現場訓練を行います。平成25年から年2回続けていますが、最近では、参加者数も60%を超えるようになってきました。引き続き、防災への危機意識を持ってもらうことも大切だと思います。

（市長）

私も、飛高区の自主防災訓練の朝に行われているシェイクアウト訓練を何回

か見せていただきました。多くの方が、安否確認などの訓練を試みられました。他の区では、ここまでのことは行われていないと思います。

年2回実施されているということですが、課題としている人材育成について、自主防災会のほとんどは、区長さんが防災会長を兼任し、1年で交代されます。任期については、行政としても課題と考えておりますが、各区の自主的な判断にお任せしているところです。

繰り返し、自主防災会の会議や区長会議などでPRしていきたいと思っています。

財源や継続については、飛高区は、人材がお見えになり、様々な訓練の実施や、機材も定期的に購入されておられ、濃度の濃い組織を作り上げておられると思います。

飛高区を例として、江南市の他の自主防災会の方に実際の訓練を見ていただくことや、事例をお伝えいただくことが重要だと考えております。

私が市議会議員のとき、区が作成されたマップをお借りし、危険個所を独自の地図に落とし込んでいることを紹介させていただいた覚えがあります。こうしたことも他の区で行っていただけるといいと思っています。

皆さんからご意見があれば、積極的にお願いします。

(出席者)

人材については、年齢の問題があると思います。高齢者の場合、災害救助に参加したくても、隣近所との協力までで、ジャッキやスコップなどの機材を使うことは大変です。市職員が協力するなど、若い方の参加方法について、行政にも考えてもらいたい。

(市長)

行政の体制には限度があります。そのため、多くのことについて、区(区長さん)をお願いをして、防災組織も含め、体制を整えていただき、何とかお願いしますというところで、進めています。

少し話は違いますが、子育てなどでごみ当番に出られないといった問題をよくお聞きしています。こういった問題も、区の中で考えていただいて、この体制を維持できるように協力願いたいと思っています。例えば、もし、当番に参加できないということであれば、防災訓練に出ます、広報を配ります、で私はいいと思います。強制ではなく、日頃からコミュニケーションをとっていくことが、大きな災害があったときには大切だと考えています。

岡山の豪雨では、大きな浸水被害を受けながら、犠牲者がなかった地区もありました。日頃からの防災会による訓練や安否確認が、結果的に命を救われたと聞いています。

防災について、飛高区は江南市の先進を走っておられます。区の中でも、考えながら進められていると思いますが、同じように進めることはなかなか難しい地区も多いと思います。

行政も一生懸命取り組みますが、地域で、区長、防災会長、地域の役員の皆さんがお互い助け合っていくことが大切だと思います。

日常生活の中では、大災害は想像しにくいのですが、頭の中で整理しながら、今のフェーズに対応していくことが大切だと思います。

(出席者)

言われる通りです。しかし知識がなければ理解ができません。

防災全体を教えるような講座を開き、若い人や区長さんに出席してもらい、その知識を持って、区の中で、役員などを務める際は、力を発揮してもらいたいと思っています。

区の中で活動する中で、どのような問題があるのか、初めてわかります。しかし、自主防災会の中で、学ぶ場所はありません。

飛高区でも、高齢化が進み、かなり年齢が高い方もおられますが、災害時どのように支援していくのか、考えていかなければいけません。考える人がいなければ、他から情報が入ってきても、変わっていくことは難しいと思います。

自主防災会では、住民の皆さんに、いろいろな情報もお伝えしますが、その情報を取り入れるかは、その人の自由です。しかし、伝える義務は私たちにあります。自主防災会の役員になった人は、少なくとも1年経験ができます。飛高区は、1年に23人が役員となるので、10年経過すると230人が経験したことになります。飛高区のおよそ1,600世帯のうちの230世帯は、ある程度防災についてわかっていることになる。そういうことを積み重ねることが、大事であり、自分の立ち位置をつないでいくことが大切だと思います。

(市長)

転入された方には、防災に関するPRを、どのように行われていますか。

(出席者)

基本的に、入区された方には、区で作成したマニュアルと安否確認版を必ずお渡しし、あわせて、多少の説明をしています。

○出席者からの意見

(出席者)

今後、30年以内に大地震が高い確率で起こると言われています。江南市の周りは津波の心配も無く、安心している感じがありますが、全国では、50年に1回、100年に1回というような、過去の規模を越すような災害も起きています。日頃から危機感を持つことが必要だと思います。

(市長)

直近では、昨年8月に大雨が降りました。犬山市にある観測所で木曾川の水位を計測するのですが、基準を超えたら、避難指示などを出していくことになっています。

昭和の時代に、美濃加茂市で大きな浸水被害がありました。今回や一昨年7月の大雨での木曾川の水位は、その時以来の高さだったと思います。

まさか木曾川が、という印象が高いと思いますが、江南市が、新しく作成しました防災マップでは、市全体が浸水地域になっています。

また、中小河川に沿って、浸水した場合に想定される水深が3m以上の濃いピンク色になっている地域もあります。これが想定される状況ですので、昨年8月

の大雨の際は、高齢者避難など、避難の際に、時間がかかる方は避難してくださいということで、避難所を開設しました。幸い被害はほとんどなかったのですが、水位が基準を超えたので、指示を出させてもらいました。

災害がまさか来ないだろうと言うような甘い考え方は、改めるといった気持ちを持つことが大事だと思います。

(出席者)

防災に関するセミナーは大事だと思います。きっかけがあれば、興味を持てます。そして、深く知るようになると、専門的なところで学びたいという気持ちになります。

すぐに専門家になることは無理なので、長い年月をかけて、少しずつ興味をもち、参加する、詳しく知識をつけるというように、段階を踏んで、学ぶことができると思います。

(市長)

セミナーがあっても、参加者が少ないことも課題だと思います。江南市を含め近隣5市町で行っており、私も受講しました。現在は、新型コロナの感染防止のため、中止されていると思いますが、再開された際は、PRしていきたいと思います。

(出席者)

長年、自主防災会の役員を続けており、防災会で購入した機材は練習して使えるようになりましたが、災害時に本当に機材が使えるのか、わからないところもあります。

自主防災会の活動の中で、最も印象に残ったのは、門弟山小学校や飛高会館で、1泊の避難訓練をしたことです。トイレや食事のことなど、1泊でも大変でした。これが1週間、2週間続くと思うと心配です。

(市長)

飛高会館で1泊の避難訓練が行われた際、少し参加させていただきました。人数が小規模でも、大変でした。炊き出し訓練が行われている区はあると思いますが、避難訓練は、他の地区では行われていない訓練です。今の時期ですと、寝るところ1つ、座るところ1つでも、寒い中どうするのか、状況により変わってくることも多く、大変な事ばかりだと思います。防災は、どこまでやれば正解なのかという、答えがないため、難しいです。

(出席者)

私も飛高区に転入してきたのですが、自主防災会という組織によって、つながりと、いざという時の安心感を持つことができます、そこは誇れることだと思います。

防災を生活に根付かせていかなければならないということや人材育成もありますが、地域によって起こる災害は、地震だけでなく、地域の用水が溢れる場合もあると思います。

小さい災害は、各地区であるはずなので、そこに興味を持ってもらうことは行

政でやれると思います。

防災に興味を持ってもらえれば、各自治会が防災会の活動を続けていくことができるので、きっかけづくりについては市に取り組んでもらいたいです。そういう中で、飛高区の例を紹介してもらっただけでなく、実際に見に来てもらい、避難所の体験訓練に参加してもらっこともいいと思います。ぜひ、様々な災害があることを知っていただくことも含め、防災を身近なものにしていく取り組みをしてください。

(出席者)

災害は忘れたころにやってきます。私たちは体験していないのでまったく想像がつかない、何十年、何百年も前のことなので、わからないでは、リスクが大きいため、災害に対する意識が高まれば、実際に起きた際、悲しむ人が少なくなるのではないかと思います。

(市長)

確かに、忘れたころにやってくるのがばかりですので、その点の意識付けを切らさずに持っていくことが大切だと思います。組織がある安心感とか、継続してやっていくこと、訓練の大切さは、いざというときに活かされるのではないかと思います。

(出席者)

災害時の備蓄品を充実してください。避難所生活や各家庭での防災グッズなどの備えに関する広報も市で工夫していただきたい。

(市長)

市には、防災関係の備品の購入を補助する補助金制度がありますが、区によっては、応募がないところもあります。行政も限度がありますが、何が必要なのか、区から要望を上げてもらえれば予算の範囲内で対応していきます。

なかなかお受けすることができないかも知れませんが、区の中で、皆さんがどうしても必要な備品があればご意見をいただきたいと思います。

(出席者)

日中、会社や学校など、家族は別々の場所にいるので、地震や大災害が起きたら、門弟山小学校に集合しようという話をしています。飛高区は、しっかりとした自主防災会があるので、私は安心だと思います。

(出席者)

学校では、防災教育を行っていますか。阪神大震災や東日本大震災の映像などを見る機会はないのでしょうか。子供が学んだ内容を、親に話してくれるといい。

(市長)

学校で、避難訓練を実施した際に、何らかの防災に関する話はしていると思います。

子供の話を聞いた親が災害に備えていくことができれば、それはとても良い

ことだと思えます。防災に対する話は、何かあった際の節目ではなく、日頃から普段構えで、意識をしながら生活をし、何かあれば動けることがよいかと思っています。

発災直後は、市から防災行政無線などで、自主防災会にいろんな状況をお伝えするなど、大切なことは行いますが、最終的には組織にお任せすることになります。飛高区では、中心に自主防災会長、それぞれの町内にも防災会長がおられる、安心感がある組織が身近にあるということをもまず多くの人に知ってもらうことが大切だと思いました。

本日は、いろんなご意見をいただきました。市も飛高区を見習わないといけないなと思いつながらタウンミーティングを進めてきました。

(出席者)

先ほど、学校での防災教育の話がありました。門弟山小学校から依頼を受けて、4年生を対象に毎年行っています。消防署と協働で、起震車の体験もしてもらっています。古知野高校で防災の話をしたこともあります。

子供に防災の話をしますと、結構理解してくれて反応があります。感想文を読むとだいたいわかってくれたなと思っています。

また、他地区の自主防災会でお話をしていますが、そこでよく言われることは、人材や防災にかけられるお金の問題です。各地区で、ある程度状況を分かってみえる方がリーダーとして動いていただけるとそのあたりもクリアできると思います。

避難所体験で1泊してみると、必要なものが出て来ると思います。このように実践しながら今後も進めていきたいと思えます。

○閉会あいさつ

本日は、皆さんから貴重なお話を聞くことができました。市長への手紙もありますので、お気づきのことがありましたら、どんどんお聞かせいただければと思います。

また、普段より、自主防災会の高田会長には自主防災活動の進展のため、ご協力いただいております、お礼を申し上げます。

最後にまとめてもらいましたように、人の問題、お金の問題は1番難しいところがあるかも知れませんが、生命に関わる問題ですので、日頃から意識を高くして取り組んでいかなければいけません。

例えば、新型コロナウイルス感染症が拡大している時に、大きな災害が起きた場合、どうするのか、やってみなければわからないことも多いかと思えます。

まずは、家族で話し合いをしていただき、備蓄品を用意し、何かあれば、どう活用するのか、どうしても避難をしなければいけないということになれば、地域と相談して、どのようにやっていくのかが必要になるかと思えます。

引き続き、高い意識を持って臨んでいきたいと思えます。本日は大変参考になりました。ありがとうございました。